

周防大島町の歴史や地域の変遷への興味・関心を高め、ふるさとに誇りをもって活躍できる人に育ってほしいという願いのもと、「宮本常一が撮影した写真を調べるコンクール」を実施しました。対象は町内の小中学生で、本年度は第11回となりました。受賞された方は次のみなさんです。

■教育長賞

「歴史がいっぱい安下庄」

安下庄小学校 第4学年

石川伊紗さん、石原陽樹くん、岡廣果奈さん、小林大透くん、中原里穂奈さん、平井慎也くん、安村 綜くん、安本祐子さん



▲「歴史がいっぱい安下庄」

■特選

「周防大島からの虹の架け橋

會じいちゃんと會ばあちゃんの船」

安下庄中学校2年 福村康竜くん

「写真を読む 過去の学舎、今の学舎」

安下庄中学校1年 鍵本愛梨さん

■入選

「いまいの写真をくらべて」

三浦小学校 3・4年

坂根 颯くん、森次春樹くん、

秋元龍斗くん、岡原徳郁くん、

森次葉一くん

「あるく・みる・きく」

宮本常一の写真から油田地区を考える」

油田小学校 3・4年

川西翔太くん、坂本一卓くん、

山本達也くん、櫛部水月さん、

久保 正くん

「昔と今の違い」

森野小学校 3・4年

山本由菜さん、江本桃香さん、

大谷菜南子さん、高橋美優さん、

松原 信くん、村上一心くん

■学校賞

「写真で語る『安下庄今昔』聞き書き集」

安下庄中学校 第1・2学年

受賞作品は、宮本常一記念館（平野417・11）において、1月23日（月）から2月5日（月）まで展示いたします。

先人の偉業の根底にある精神を子どもたちが受け継ぎ、これからも学びを深めていくことを願っています。

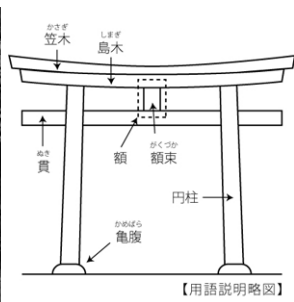
■問い合わせ

学校教育課

☎0820(78)2204

17 周防大島の文化財

こうのやま 神山神社の石鳥居（東和地区 森）



【用語説明略図】

神山神社の石段の登り口の手前、海に面して建つ。制作は元禄9年（1696）で、東和地区では制作年代が最も早いものであり、資料的価値が高く文化財として貴重な石造物である。総高367.5cm、笠木総長460cm。柱の間の内側幅221cm、円柱の径31cm（柱間比1：7）で、材質は花崗岩である。この鳥居は、笠木・島木・円柱・額束・貫からなり、円柱の根もとに亀腹を置く明神鳥居の形式である。基礎部分はかなり砂に

埋まり、向かって左側の亀腹は土の中にある。高さに比べて柱の間が広く、安定感があるのが特徴である。笠木と島木は一つの石で作った二つの材を、中央で斜に合せて、上から石の楔をはめ込んで合せている。笠木の上部は四角型である。笠木・島木は共に「水切り」といって、両端が地面に対して垂直に切られている。また、笠木・島木は柱の外側部から自然に反り上がっているが、その厚さは両端と中央との差がほとんどなく、いわゆる反増はわずかである。このことから、「水切り」と共に、古い様式を示す鳥居と考えられる。貫は三つの材からなり、それぞれ円柱にほぞ差しとし、上下に鉄の楔を打ち込んでいる。額束と額を一つの材から彫出し、島木と貫の間にはめ込んでいる。額の表面には「神山神社」、裏面に「奉懸走辺源助」とある。この額は後年に制作したもので、もとは額束のみだったと思われる。

向かって右の円柱裏には「奉寄進 本願主 岡本仁兵衛 惣氏子中」、同じく左の円柱には「于時元禄九丙子天卯月吉日 神主 高田左馬尉」とある。このことから冒頭に記した制作年代がわかる。また本願主の岡本仁兵衛は森の有力者である。

《周防大島町文化財保護審議会委員 菊本 雅喜》